ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
E142M006	消費者教育 (Consumer Education)		対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態
選択	2	3	教育学部		月4	日本語		単独

担当教員	氏名　財津　庸子 E-mail　yzaitsu@oita-u.ac.jp　内線　7601
授業の概要	消費者教育の定義・理念・基本概念について理解し、消費者教育推進法に基づく学校教育での推進のあり方、家庭科における具体的な内容を構想し表現することができる。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1	学校教育における消費者教育の位置づけと意義について説明できる。				○			
目標2	小中高家庭科の消費者教育の内容を具体的に構想し説明できる。	○						
目標3								
目標4								
目標5								
目標6								
目標7								
目標8								
目標9								
目標10								
	各DPへの関連度（計10）	5			5			

授業の内容

1	ガイダンス　消費者教育の変遷
2	消費者教育の定義
3	消費者教育の理念・基本概念
4	学校教育における消費者教育
5	小学校家庭科における消費者教育
6	中学校家庭科における消費者教育
7	高等学校家庭科における消費者教育
8	学校教育における具体的な学習内容１．契約・悪質商法
9	学校教育における具体的な学習内容２．支払方法（各種カード等）
10	学校教育における具体的な学習内容３．情報収集・ネット関連トラブル等
11	学校教育における具体的な学習内容４．エシカル消費（エコ・生物多様性他）
12	学校教育における具体的な学習内容５．エシカル消費（被災地支援・フェアトレード他）
13	学校教育における具体的な学習内容６．消費者市民社会の構築
14	教材研究した内容に基づいた教材開発１
15	教材研究した内容に基づいた教材開発２およびまとめ

アクティブラーニング			その他の工夫
A:知識の定着・確認	○	調査、発表および意見交換、実験・実習	
B:意見の表現・交換	○		
C:応用志向			
D:知識の活用・創造	○		

授業時間外学修の内容と想定時間		
	準備学修	講義該当箇所の予習や事前の課題（15h）
	事後学修	講義該当箇所の復習（15h） 課題に関する調べ学習や製作等（15h）
	想定時間合計	45

教科書	とくに指定なし。随時参考資料等配布（Moodle活用等）
参考書	小中高の家庭科教科書（手持ちので可） 谷村賢治・小川直樹編「新版　生涯消費者教育論ー地域消費者力を育むために」晃洋書房(2007)ISBN978-4771018570 日本消費者教育学会編「新消費者教育Q&A」中部日本教育文化会(2007)ISBN978-4885219054

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	レポート	30%	○	○								
	テーマ別の課題や成果物	50%	○	○								
	発表や意見交換	20%	○	○								

注意事項	エコクッキングやフィールドワークなどをともなう授業を行う際に自己負担が生じることがある。また、時間外に学外で行う活動や課題が課されることがある。
備考	
リンク	URL
担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	中学校・高等学校の家庭科教員
実務経験をいかした教育内容	中学校・高等学校の家庭科教員としてこの分野の授業を経験したことを活かす。